

ディケンズ・フェロウシップ日本支部 ニュースレター

2003年度の春季大会は6月7日、弘前大学で開催された。快晴の一日で、美しい岩木山が雄姿を見せる中、知的興奮を駆り立てるプログラムが繰り広げられた。遠隔地であるにもかかわらず、50名の会員が参加し大きな成功を記した。以下、大会の報告および諸報告をお知らせいたします。

春季大会

西條支部長より、弘前大学および小野寺進氏に対して大会開催のねぎらいのことばが述べられた。次いで、心配されていたロンドン本部年会費値上げの件がどうやら小幅なものとなり、支部にとって過大な負担にならない見通しであることが報告された。なお、かねてから計画していた『ディケンズ大事典』（仮称）の出版については、出来るだけ体制を整え、総会に提案しこれを諮りたいと述べられた。つづいて研究発表・シンポジウムが行われた。

1 研究発表(13:45-14:55)

原英一氏（東北大学）の司会により、次の2名の研究発表が行われた。

- (1) 水野隆之氏（早稲田大学）は『リトル・ドリット』における正しい視点」と題して、語り手の視点だけでなく複数の登場人物の視点から考察を加え、作品の視点を追求した。
- (2) 野々村咲子氏（名古屋大学大学院）は「ディケンズとコリンズの精神科学 *Our Mutual Friend* と *Armada* における意識」と題して、19世紀中期に盛んとなった生理学的心理学、神経学的心理学の分野を幅広く渉猟し、無意識下に抑圧される欲望と謔妄状態 (*Our Mutual Friend*)、夢解釈と神経系に関する考察 (*Armada*) を取り上げ、二つの作品が、当時の医学的理論に積極的に参加していることを論じた。

2 シンポジウム「1980年以降のディケンズ批評」(15:15-17:40)

村山敏勝氏（成蹊大学）の司会兼講師により、新野緑氏（神戸市外国語大学）、玉井史絵氏（同志社大学）を加えて、これまでつづいた批評シリーズを締めくくるシンポジウムが開かれた。まず、玉井氏はDickens研究におけるポストコロニアル批評を、Brantlinger、Perera、Davidを中心に概観した。ポストコロニアル批評はDickensの作品を帝国の政治経済という大きな枠組みから検証することを可能としたが、同時に単なる歴史の再確認に終わってしまう危険性もはらんでいると指摘。つづく新野氏はこの期の「イズム」研究を嫌い、この期に多くの著書を著したAlexander Welshを取り上げ、彼の研究方法に目を向ける。氏は、Welshが19世紀文化の中にディケンズ作品を位置づけながらも、どこか論理的説得にかけ、通時的視点にかけ、作品と伝記的事象を便宜的に操作する姿勢が見えることを指摘して興味深いものがあった。村山氏担当の「ディケンズと新歴史主義」においては、文学にみられる構造を非文学テキストにも見出し、さまざまな場においてレトリックの相同性を明らかにしようとするこの方法では、「個人」は理論的にとりあえず消去されるが、ディケンズの場合には著作活動以外に広範な活動をしているので、実際に取り上げられる非文学テキストは、ディケンズ個人との関連が明らかな場合が多く、テキストと非文学テキストはしばしば横断しているのが実情である。従って彼の場合、取り上げるテキストの選択でなく、その政治的自意識にこそ「新」歴史主義があるとの指摘がなされ、ディケンズ文学の土壌の広さが改めて強調された。フロアからは、Post-criticism、つまり研究の行き詰まりの打破について、講師はそれぞれ何を感じているかとの活発な質問もあり、白熱したシンポジウムとなった。

3 懇親会（於シティ弘前ホテル）(18:30~20:15)

40名を超える会員が参加し、間先生の乾杯の音頭を受け、なごやかで楽しい語らいの場が盛り上げられた。締めを小池先生のスピーチで飾り、ついで場所を三味線居酒屋「山唄」に移し、ここで津軽三味線の生演奏を聴きながらさらにフェロウシップの友好を深めた。

諸報告

- (1) 『年報』への投稿論文締切は7月10日(必着) 送付先は日本支部事務局宛。理事による審査(採・否・再提出)をへて受理・掲載します。
- (2) 『年報』用の記事・ニュースの締切は8月10日です。
- (3) 2003年度総会は10月4日、甲南大学において行います。John A. Poole 氏のディケンズ講演を予定していますので、ご期待ください。なお、研究発表の希望者は7月末までに事務局までお申込みください。
- (4) 日本におけるディケンズ研究書誌を作成するため、会員(および会員以外の方)の2002年度(2002.4.1~2003.3.31)の著書・論文等を集めていますので、是非下記宛にお送りください。ご協力をお願いいたします。

松岡光治理事宛 (e-mail: matsuoka@cc.nagoya-u.ac.jp)

- (5) 今後の予定

2003年度総会	甲南大学 (10月4日)
2004年度春季大会	英国大使館 (交渉中)
2004年度総会	大手前大学
- (6) 三浦正孝氏が3月17日に亡くなりました。ご冥福を祈ります。

以 上